

東通村の美しい環境を創り守るために ～21世紀東通村環境デザインシンポジウム開催～

「21世紀東通村環境デザインシンポジウム」(主催 東通村、協賛東北電力(株)・東京電力(株))が、3月18日(木)、東通中学校体育館において開催されました。

このシンポジウムは、環境に対して、村に関わる全ての人々が共通の認識を持つて行動できるよう、啓発活動の一環として行われ、参加者は小中学生を含め約700名となりました。

越善靖夫村長からは、「原



講演する野口氏

がいつまでも続くことを願う。」と挨拶が述べられました。

基調講演は、アルピニスト野口健氏を招き『富士山から日本を変える』をテーマに行われました。

野口氏は、「外国人に『日本人はヒマラヤを富士山のようにゴミで汚すのか』と言われ、言い返せなかった』というエピソードや、「環境問題は自然相手に取り組む」というイメージがあった



越善村長から挨拶

が、「環境の『環』はわ

政、地元の人たちが連携して、この輪をどれだけ広げていけるかが大事である」と強調しました。

パネルディスカッションでは、「美しい東通村の環境を創り守るために」をテーマに意見が交わされました。パネリストは野口氏のほか、尾瀬の保護活動に尽力されている竹内純子氏(東京電力(株)環境部兼用地部)、川端昭治氏(尻労漁業協同組合代表理事組合長)、二本柳玲子氏(AMLS協議会会長)、コーディネーターは川原田恒氏(21世紀東通村環境デザイン検討委員会委員長)が務めました。

竹内氏からは、尾瀬保護



パネルディスカッション

活動の紹介と環境教育の大切さ、ふるさとを思う気持ち

が重要と語られ、川端氏からは海・山・川の関係性、二本柳氏からは人と人の関係性という視点から意見が述べられました。

最後に、コーディネータ



会場いっぱい参加者

ーからは「環境保全や人々の暮らしは密接に関わっている。村民、企業、行政が一体となって、村の美しい環境を創り守り、次世代に引き継いでいくことが大事である」とまとめられました。

会場には、東通村の自然環境、ゴミの不法投棄の実



コーディネーター



パネリストの方々

態等の写真が100枚以上展示された他、休憩中におけるまわられた飲物の容器は、ゴミの減量に配慮し、紙コップではなくお茶碗が用意されました。